日本大学農獣医學部校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員
印刷所
東京[illegible]工KK

昭和52年度 学部校友会総会・懇親会開催

日本大学農獣医学部校友会総会は、去る七月十六日住友ビル内「新宿コックドール」において会員多数出席のもとに開催されました。佐藤弘一会長の挨拶、議長には鹿野忠副会長が満場一致で選出され、総会にうつりました。

総会議題は一、昭和五十一年度事業報告、二、昭和五十一年度決算報告、三、昭和五十二年度予算案報告、四、会則一部追加変更について（支部規定）、五、その他でした。

まず、第一号議案については石井事務局長より、五十一年度総会・懇親会開催についての報告、理事会、各委員会及び分会の活動状況について報告があり、承認されました。第二号議案は月瀬会計担当の報告、山根勝次監事より監査結果報告を受けたのち承認されました。第三号議案である五十二年度予算（一三、七五一、〇七四円）は活発な審議ののち承認されました。第四号議案は、本会々則第二章第八条の支部規定を一部追加変更することに関する件です。会則変更小委員会委員長西鳥羽曬氏（副会長）より委員会原案を受け、審議ののち、別掲の「支部規定」が承認されました。第五号議案では、学部校友会三十周年記念事業の取り組みについて討議され理事会などでさらに検討することになりました。

以上、五つの議案を満場一致可決後、六時より同会場において懇親会を開催しました。

会には小堀進副総長・学部長をはじめ学部執行部および多数の来賓ならびに校友諸氏が出席、なごやかな歓談の一夜を過ごしながら午後八時散会しました。来年度総会・懇親会にはさらに多くの校友諸氏が出席されますことを望します。

農獣医学部支部規定について

昭和五十二年度総会において、つぎの通り「支部規定」が定められました。

◉支部規定

第一条、支部は理事会で承認し、総会に報告する。

第二条、各支部に関する規定は本会則にのっとり、各支部毎に別に定める。

第三条、各支部は本校友会との連繋を保つ。

支部は必要に応じ、本理事会の承認を得て、代表者を理事会に出席させることができる。ただし理事会の構成員としない。

第四条　本規定は昭和五十二年七月一六日より施行する。

昭和51年度　日本大学農獣医学部校友会　会計決算報告書

（収入の部）

科目	予算	決算	増△減	摘要
Ⅰ）前年度繰越金	573,868.	573,868.	0.	
Ⅱ）入会金	12,490,000.	12,490,000.	0.	
1）1年次	10,295,000.	10,295,000.	0.	[illegible]
2）2年次	2,089,000.	2,089,000.	0.	[illegible]
3）その他	106,000.	106,000.	0.	[illegible]
Ⅲ）預金利子	500,000.	639,551.	139,551.	[illegible]
Ⅳ）その他雑収入	0.	20,000.	20,000.	
収入合計	13,563,868.	13,723,419.	159,551.	

（支出の部）

科目	予算	決算	増△減	摘要
Ⅰ）分会交付金	7,322,500.	7,322,500.	0.	
1）1年次	6,177,000.	6,177,000.	0.	[illegible]
2）2年次	1,092,500.	1,092,500.	0.	[illegible]
3）その他	53,000.	53,000.	0.	[illegible]
Ⅱ）経常費	2,060,000.	1,726,895.	△ 333,105.	
1）人件費	910,000.	855,640.	△ 54,360.	
2）本部分担金	100,000.	100,000.	0.	
3）事務局運営費	150,000.	169,875.	19,875.	
4）通信費	300,000.	151,670.	△ 148,330.	
5）会合費	450,000.	311,710.	△ 138,290.	
6）交際費	150,000.	138,000.	△ 12,000.	
Ⅲ）事業費	3,400,000.	3,265,950.	△ 134,050.	
1）名簿作成積立金	2,500,000.	2,500,000.	0.	
2）会報費	300,000.	228,500.	△ 71,500.	
3）分会委員会運営費	50,000.	18,750.	△ 31,250.	
4）名簿委員会運営費	50,000.	18,700.	△ 31,300.	
5）積立金	500,000.	500,000.	0.	
Ⅳ）予備費	781,368.	0.	△ 781,368.	
1）予備費	781,368.	0.	△ 781,368.	
支出合計	13,563,868.	12,315,345.	△1,248,523.	
次年度繰越金	1,408,074.			

基金　校友会積立金(1)7,000,000.　校友会積立金(2)3,763,800.　校友会積立金(3)3,000,000.

昭和52年度　日本大学農獣医学部　会計予算

（収入の部）

科目	昭和52年度	昭和51年度	増△減	摘要
Ⅰ）前年度繰越金	1,408,074.	573,868.	834,206.	
Ⅱ）入会金	11,643,000.	12,490,000.	△ 847,000.	
1）1年次	9,595,000.	10,295,000.	△ 700,000.	[illegible]
2）2年次	145,000.	2,089,000.	△ 639,000.	[illegible]
3）3年次	1,903,000.	106,000.	1,797,000.	[illegible]
Ⅲ）預金利子	700,000.	500,000.	200,000.	[illegible]
収入合計	13,751,074.	13,563,868.	187,206.	

（支出の部）

科目	昭和52年度	昭和51年度	増△減	摘要
Ⅰ）分会交付金	6,800,000.	7,322,500.	△ 522,500.	
1）1年次	5,757,000.	6,177,000.	△ 420,000.	[illegible]
2）2年次	87,000.	1,092,500.	△1,005,500.	[illegible]
3）3年次	956,000.	53,000.	903,000.	[illegible]
Ⅱ）経常費	2,330,000.	2,060,000.	270,000.	[illegible]
1）人件費	1,080,000.	910,000.	170,000.	[illegible]
2）本部分担金	100,000.	100,000.	0.	[illegible]
3）事務局運営費	200,000.	150,000.	50,000.	[illegible]
4）通信費	300,000.	300,000.	0.	[illegible]
5）会合費	450,000.	450,000.	0.	[illegible]
6）交際費	200,000.	150,000.	50,000.	[illegible]
Ⅲ）事業費	2,950,000.	3,400,000.	△ 450,000.	
1）名簿作成費積立金	2,500,000.	2,500,000.	0.	[illegible]
2）会報費	350,000.	300,000.	50,000.	[illegible]
3）分会委員会運営費	50,000.	50,000.	0.	[illegible]
4）名簿委員会運営費	50,000.	50,000.	0.	[illegible]
5）積立金	0.	500,000.	△ 500,000.	
Ⅳ）予備費	1,671,074.	781,368.	889,706.	
1）予備費	1,671,074.	781,368.	889,706.	
支出合計	13,751,074.	13,563,868.	187,206.	

基金　校友会積立金(1)7,000,000.　校友会積立金(2)3,763,800.　校友会積立金(3)3,000,000.

小堀進教授を学部長に再選

小堀　進学部長は、昭和五十二年九月二十日に行なわれた農獣医学部学部長選挙において三たび学部長に選出されました。

先生には、健康に留意され「あかるい雰囲気づくり」をめざして縦横にその才腕を発揮されることが期待されています。

木全春生名誉教授御逝去

学部顧問木全春生先生には、六月九日午後四時五十分、脳出血のため東京女子医大病院にて御逝去。葬儀は六月十四日築地本願寺和田堀廟所で厳粛に行なわれました。

先生は昭和二十七年から本学獣医学科教授として教鞭をとられると共に、さまざまな学部要職を歴任されました。ご冥福を祈り奉す

学園の現況

学部長　小堀　進

農獣医学部校友会々報が再刊された、昭和四十七年十一月（第二十四号）に、ご挨拶をかねて学園の現況をお伝えしてから早や五年、当時の会報を改めて読んで、今日の校友会の発展を見る時心からお喜びを申し上げずにはおれません。これは会長を初め役員諸兄はもとより会員諸兄姉のたゆまぬご努力の賜と深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて「学園の現況」をとのことでありますが、同じ会報の学園の現況報告をみまして、これまた教職員各位のご努力が実って大いに発展しておりますことは、同慶に堪えないところであります。

昨年度より定員増（獣医学科は申請せず）が認可され、各学科は一四〇名と二〇名ずつ増員されました。

また大学院は農学と獣医学の二研究科があり、農学研究科は当時四専攻であったのが七専攻（農学・農芸化学・畜産学・農業経済学・水産学・食品工学以上いずれも博士課程設置・農業工学専攻は修士課程）となり学生数は大学院において一〇五名、農獣医専攻科二二名、学部においても綿密な教育をとの考えから、できるだけ定員数に近ずけ、農業経済学科と拓殖学科の二文系学科は定員の一・四倍以内、理系七学科は一・三倍以内…医、歯系に近い獣医学科は一・一倍を目標にしております。

本年度は、ご承知のように合格者の納入金が、いわゆる二段階方式を採用したので入学者の定数が、なかなか確保できず苦心致しました。

施設としてはその後両国本館の七号館の隣に八号館（研究棟）が建ち、五号館の裏に九号館（実験動物棟）が完成。北海道八雲にも演習林演習所が出来、水上の演習林演習所と共に研修に将又厚生施設として活用して頂けると思います。その他藤沢校舎には近代的な円形校舎が出来上った外、現在管理棟として松林の一角に五号館と道路を隔てて二階の廊下で接続する地下一階、地上四階約三六、〇〇〇平米のモダンな建物を建築中で明年八月には竣工の予定です。

又岩手県東磐井郡に校地約三三〇、〇〇〇平米の土地を求め、近く研修棟・家畜診療実習場等を建設東磐井郡八ヶ町村挙げての協力により産業動物の診療・衛生・家畜の飼養管理実習を行い、地域の畜産振興に寄与する他、山間地の生野菜の生産指導をも併せ行い、地域社会に貢献すべく計画しております。

研究施設としては、現在設置されている日本大学農獣医学部総合研究所を基盤として、生物系・化学系・工業系・文系の各部門毎に研究所を設け、総合研究の推進を計る予定で、着々その施設・諸規程等を整備しております。

現在既に設置されているものとして生物化学研究所（仮称）・獣医学研究所・国際地域研究所・下田臨海実験所・実験動物センター（仮称）等で、その一部は充分教育研究に活用されております。

昭和五十二年度における資金収支予算額は約八十九億余で五年前の予算額に較べ二倍余の額になっております。今後予算の許す範囲でできるだけ研究面にも力をそそいで行きたいと考えております。

教職員総数は四〇一名で内教員二一九名、職員一八二名になりました。

学部学生数は本年度七、五九三名（内女子学生五四五名）、昭和五十年度に較べ一、五九九名、五十一年度に較べ八二五名の夫々減となっております。この減少は何も志願者数が減ったからではなく、本年度の志願者総数は二一、二三名で学部開設以来最高数で、定員増を認可されながら後述の理由から自主的に減らしたものです。短大農業科は三〇名です。

宿望の獣医学教育年限延長が獣医法の改正により確定し、昭和五十三年度入学生より学部四年十修士二年の積み上げ方式で実施されることになりました。わが国の獣医学教育は、諸外国に比べ、専門教育年限が短く、これでやっと国際水準に達することになります。

近年国公立大学と私立大学との学費の格差が次第に大きくなり、日本大学としては学生諸君並びにご父兄のご理解を得て一〇年振りで学費の改訂を先年行いました。

しかしそれは新入生のみで、在籍学生は従前通りです。従って新学生が納めるようになるのは四年後になります。一方物価は年を追って値上りしております。

そこで従来一般に私学では定員を越す学生数の水増しと寄附金でなんとか賄ってきました。

ところが昭和四十九年度に私立学校振興助成法が制定され、経常費の五〇％まで補助しようという考えで施行されるようになりましたが、実際には二〇％にも足りないのが現況です。そして大幅な学生数の水増しをしている学校には助成を停止する方針を打出しております。

一方寄付金については愛知医大等一部の医歯系大学のように多額の寄付金を色々な名目で徴集し、社会的に批判を受け、社会問題にまで発展、そこで文部当局は今後入学を条件としての寄付は一切まかりならぬとの通達を出し、明年よりは少くとも入学時に明瞭に、その目的を明示した寄付以外は徴集できなくなり、日本大学としてもこの線に沿って自主的に医歯系以外の学部でもこれを守るよう指示されております。

先に日本大学教学審議会は文部省大学局長を招き、わが国の高等教育政策の講演を聴く機会を持ちました。その際の大要を述べますと、わが国の高等教育は近年急速な拡大を遂げ、国際的にも高い普及率を示しているが、このような高等教育の急速な拡大は、十分計画性を持たずに行われた為、地域配置・専門分野構成その他質的な面で種々の問題や矛盾を生じている。そこで昭和四十七年以来高等教育懇談会を作り、今後わが国の高等教育の拡充整備を長期的な在り方について検討、昭和六十一年度を目標として、当面十八才人口が増加に転ずる五十六年度までの間に今後の発展の基盤となる整備を図ることにしたということである。

その為「特に必要があると認めた場合を除き」私大・短大の設置学部又は学科の設置及び収容定員の増加は認可しないことにする旨が定められ、甚だ私学にとって厳しいものとなった。日本大学もこの線に沿って前述のような比率を守って定員数に近づけ厳密な教育を実施することに致しました。

さて農獣医学部として発足してから早いもので二十六年目になり[illegible]願い致します。

最後に私の一期目の学部長の任期が来る十月二十九日で満了となります。そこで学部長選挙規程に基き、去る九月二十日に選挙を行いましたところ再選されました。

これ一重に校友諸兄の日頃のご支援の賜と存じ茲に厚く謝意を表すると同時に意を新に教職員と共に一体となって農獣医学部発展のため微力を尽くす所存でございます。校友諸兄姉におかれましても母校のため一層のご高配を賜りますようお願い申し上げて挨拶といたします。

農獣医学部校友会役員

名誉会長　農獣医学部長　小堀　進
会長　佐藤　弘一（食経）
副会長　設楽　茂雄（農化）
〃　鹿野　忠（林学）
〃　西鳥羽　曬（農学）
理事　高橋　文次郎（農学）
〃　宮浦　敏鷹（農学）
〃　石井　謙二（農化）
〃　茂沢　呆（農化）
〃　黒田　博（獣医）
〃　山田　民雄（獣医）
〃　大瀬　俊一（獣医）
〃　白山　巌（畜産）
〃　野崎　邦興（畜産）
〃　田島　貞次郎（畜産）
〃　三木　敏夫（食経）
〃　高坂　鉄雄（食経）
〃　上野　嘉昭（林学）
〃　片岡　寛純（林学）
〃　後藤　英俊（水産）
〃　橋本　市治（水産）
〃　東　禎三（水産）
〃　八木　茂（農工）
〃　世良田　和寛（農工）
〃　一川　宏也（農工）
〃　中村　清一（食工）
〃　和田　鉄司（食工）
〃　青井　孝雄（食工）
〃　庄川　洋一（拓植）
〃　北川　休（拓植）
〃　岡田　正男（拓植）
〃　天野　六江（短大）
〃　名取　勝（短大）
〃　鈴木　明夫（短大）
監事　山根　勝次（食経）
〃　戸崎　紘一（農工）
〃　坂野　忍（食工）
事務局　局長・石井賢治（農学）　庶務・山口照雄（食経）
会計・月瀬　東（獣医）

分会だより

桜水会

紫友会

むつあい会

農学校友会

農業工学分会

林学科分会

拓友会

角笛会

食品工学会

満喜葉会

いもつる会

就職状況について

昭和五十一年度卒業生の就職もお陰様で、就職希望者の一〇〇％が就職したことを御報告し、校友諸兄の御尽力に対して感謝申し上げる次第である。

しかしながら、五十一年度の就職についても、周知の通り、オイルショック以来の不況のおりをまぬがれませんでした。

この状況は、来年三月の卒業生にとっても同様の状況にあり、九月十八日の求人票開示関係日の新聞には、「大卒 就職 冬の時代」「（上場企業）」「採用 ゼロ 約三割」、連続中止も「百社」というような見出しで就職戦線を報道しているように、一部二部の上場企業だけという楽観は出来ない状況にある。

このような状況なので、求人は少いのかというとそうではなく、当学部でみるならば、求人件数は減ることなく、逆に増加しているのである。

過去三年間をみると、四九年度一九九五件、五十年度二〇六一件、五一年度二二七件の求人件数であり、本年度も増加するだろうと思われる。

企業を大・中・小に分けるならば、大企業は求人見合せ、求人減をしており、求人件数は減少しているが、それに対し、中小企業からの求人件数が増加しており、今迄、大卒を求めなかった企業や、小企業からの求人が目立つというような内容である。

このようなことで、五十一年度の卒業生の就職も、本人が少しも満足した職場を、皆が得られたということではなかった。

今年も、四年生は十月一日の企業訪問解禁、十一月一日からの採用試験解禁に向かって、就職活動におおわらわであるが、不況時代に於ける傾向として、安定した職場をということで、今年も公務員志望者が多く（公務員試験の大半が終ったが、まだその発表は判らないが）例年以上に厳しかったものと思われる。

このような状況に対処すべく、学部では就職について真剣に取組み、その一つとして、就職資料室を九月二十一日に開室した。

就職資料室には、企業からの求人票、企業のパンフレット、その他就職に関する資料を備え、学生が少しでも多くの情報を知り、少しでも良い企業を選択出来るようにという目的で、設置したものである。

また発足したばかりで、資料も[illegible]一時借用するという[illegible]資料も少いが、来年充実させ、学生の要望に答えられるよう努力するつもりである。

本年度も、校友諸兄の御協力をお願いする次第である。

海外での学部校友との出合い

添田 秀男

日本大学昭和五〇年度中期海外派遣研究員として五二年三月から同年九月まで約六ヶ月間欧米諸国の水産事情について研修して参りましたが、特に各地で本学農獣医学部校友の方々と出会い色々とお世話になりました。短期間の旅行のこともあり外国で校友各位とお会いできる事は極めて稀なことでしたが、偶然にも出会った校友諸兄の近況などについて最も多く接したブラジルでの事から報告致します。

サンパウロ州立水産研究所に勤務している末永静直（二七年水産卒）と大橋仁秀（三九年水産卒）の両氏は、初めてブラジル政府の正規職員として採用になった日本人（日系人と言う意味でなく）と[illegible]して文字通りの草分け人になっております。[illegible]水産指導所に勤務しておりましたが、六年前に独立し、[illegible]サンパウロから南へ約二五〇キロ離れたカナネアと言う町にある水産研究所の[illegible]に関する研究を行ない、すでに実用化の段階に達し本年から業者に技術指導する段階に達しているとの事でした。大橋氏はテナガエビの増養殖に関する基礎的研究に従事しており、これらゾエア期までの飼育に[illegible]

私はサンパウロに到着した際の[illegible]

[illegible]

その後ホテルで山本昭男（三〇年獣医卒）、小森 広（三一年獣医卒）、岡田[illegible]（[illegible]年畜産卒）の各氏と会いました。[illegible]

[illegible]・ミネラル剤を主体とした飼料添加剤を製造されており、[illegible]

[illegible]ストランを経営されておられます。

またサントスでは小磯 和夫氏（三四年畜産卒）が[illegible]（三六年獣医卒）を初め多くの方々とブラジル人を雇いながらサントス一の家畜病院を経営されております。[illegible]

また水産の後輩である西田[illegible]氏が東南アジアを回った時にフィリッピン・ミンダナオ島のダバオで会った水田[illegible]氏（四八年水産卒）は海外青年協力隊員として[illegible]タイのバンコクで[illegible]（三三年水産卒）がタイ政府水産局の中堅技師として活躍しているのにも会いました。

またハワイでは[illegible]（四二年水産卒）がホノルルの魚市場でカツオ・マグロの仲買いを[illegible]

[illegible]想えば[illegible]母国を遠く離れ文字通り身一つ・腕一本で[illegible]海外校友諸兄の前途に幸多かれ、と祈らずにはおられませんでした。

さらに三年前[illegible]

海外の教育施設視察を終えて

事務長　吉川 幸四郎

短期間の御褒美を頂かせられたのが昭和五十一年の暮で、学期及び学年度末で多忙な時期ではあるし、多少迷ったがこんな機会も数多くないと思いこれを受けることに決心し、三月末日までに出発すべく準備を始めたが時期が時期だけに満足ゆく計画すらできず旅行社に依頼しその指示に任せて出発する破目になってしまいました。目的は教育施設の視察調査であり主としたが教員の場合と異って少々焦点がぼけることも止むを得ないと考え、ヨーロッパ十ヵ国（ギリシャ、イタリア、スペイン、イギリス、フランス、スイス、オーストリア、ドイツ、オランダ、デンマーク）とそしてアメリカを加え十一ヵ国を二ヵ月間で駆け足で歩くことになり、昨年来少々組織も落ちていましたので復帰と思いはかつも同行した大学の教授の同輩と[illegible]

[illegible]

イタリアのローマ、ポンペイそしてナポリと紀元千年前の文化文明さらにその遺跡と伝統を充分偲ぶに残している素は[illegible]

[illegible]

さらに少々足を延ばすとトレドの[illegible]

[illegible]

[illegible]ペンハーゲンは今は昔の感じで、人魚の像、チボリ公園は観光地の一つに過ぎず、かつて栄えた酪農業はその技術を日本にもってゆかれ、[illegible]

[illegible]ヨーロッパの旅を終え次にコペンハーゲンから空路アメリカのニューヨークに飛び[illegible]

[illegible]

学部祭のお知らせ

本年の農獣医学部祭（三茶祭）は十月二十九日から三十一日の間行なわれます。今年の統一テーマは「一握りの土と汗」です。

内容は各サークルの学術研究発表、音楽祭、みこし、セリ市、のど自慢大会、各種模擬店など多様です。より充実したものにしようと実行委員会も大はりきりで準備に取り組んでいます。

校友諸兄の御来校をお待ちしております。

昭和53年度 日本大学農獣医学部・短期大学部農業科 入試科目

学部・学科	入試科目
農獣医学部（農学・農芸化学・畜産・林学・水産各学科） 短大農業科	国語・数学：国語（現代国語・古典Ⅰ乙を含む）、数学Ⅰ、数学ⅡBのうち1科目選択 理科一物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰのうちの1科目選択 外国語一英語B
農獣医学部（獣医学科）	数学一数学Ⅰ、数学ⅡBのうち1科目選択 理科一物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰのうち2科目選択 外国語一英語B
農獣医学部（食品経済・拓殖各学科）	国語一現代国語・古典Ⅰ乙 社会・理科：倫理社会、政治経済、日本史、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰのうち1科目選択 外国語一英語B
農獣医学部（農業工学・食品工学各学科）	数学一数学Ⅰ、数学ⅡBのうち1科目選択 理科一物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰのうち1科目選択 外国語一英語B

入試期日

学部	学科	期日
農獣医学部（昼）	獣医	2月20・21日（月・火）
	農学・農芸化学・畜産・食品経済・林学・水産・農業工学・食品工学・拓殖	2月22日（水）
短期大学部	農業科（昼）	3月6日（月）

★入試関係についての照会は　東京都千代田区西神田（〒101）日本大学入試事務室へ